

○計画期間：平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月（5 年）

## I. 中心市街地全体に係る評価

### 1. 平成 27 年度終了時点（平成 28 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市の優れた交通利便性、安全安心の居住空間や豊かな自然などを背景として、中心市街地においては、コールセンター及び事務センター等の企業立地件数は増加傾向であり、歩行者数も徐々に増加するなど、事業の進捗による効果が現れ始めている。

また、熊本城と中心商店街の間に位置し、商業核の一つである桜町地区では、老朽化したバスターミナルの建て替え、商業施設や（仮称）熊本城ホール等の整備が再開発事業により行われる計画であり、平成 27 年 2 月に百貨店が閉店し、同年 10 月からはバスターミナル機能を仮移転するなど、再開発事業が本格的に稼動し始めたところであるが、平成 30 年秋の事業完成までの間、中心市街地のにぎわいを維持していくことが大きな課題である。

このため、本市においては、隣接する花畑地区において、本年度から（仮称）花畑広場を暫定的に供用開始したところ、物販、飲食や展示会等の多様な利用が行われ、周辺 3 地点の歩行者通行量は前年と比べ、平均 1.4 倍の伸びを示している。

一方、熊本駅周辺については、平成 30 年の連続立体交差事業の完了に引き続き、九州では博多駅に次ぐ規模で、商業施設、ホテルやマンション等により構成される駅ビル建設が着工されるとの計画が公表されたところである。そのような中、九州新幹線の全線開通を契機に、熊本駅の平均乗降車数も順調に増加しており、本市の玄関口として相応しい更なるにぎわいが創出される見込みとなっている。

これらのビックプロジェクトに加え、桜町・花畑地区に隣接する地元金融機関の本店が建て替えられ、下通 A 地区における新たな商業施設も平成 28 年度内の完成を目指して建設工事が進むなど、中心市街地が大きな変貌を遂げようとしており、中心市街地におけるまちづくりの機運が高まっている。

しかし、依然として郊外大型店舗のほか、ドラッグストア、ディスカウントストア等の出店をはじめ、インターネットショッピングの普及など、中心市街地の小売業全体における競争激化に伴う活力の低下が懸念され、本市が毎年実施している「市政に関するアンケート」においても、中心市街地ににぎわいがあると感じている人が 3 割程度にとどまっている。

本市としても、熊本城の歴史的な魅力を活かし、城下町や中心商店街、さらには熊本駅周辺との回遊性の向上に向け、基本計画に掲載された事業を着実に進め、中心市街地全体の更なるにぎわい創出に向けて取り組んでいくものである。

### 2. 平成 27 年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

本市の中心市街地は、九州新幹線全線開業と政令市移行に伴い、都市としての魅力が向上したことに加え、基本計画に沿った行政と民間のさまざまな取り組みの実施、さらには、台湾高雄・

香港との国際線定期便就航、及び大型クルーズ船の寄港による海外観光客の増加等もあり、歩行者・自転車通行量と市電の年間利用者数は目標値を上回る効果が見られるなど、基本計画の数値目標は概ね順調に推移していると評価している。

なかでも、本市中心市街地の商業核の一つとして機能してきた桜町地区においては、再開発事業に伴う解体工事が平成 27 年 8 月に着工し、平成 30 年秋の完成までの約 3 年に及ぶ一連の工事期間中のにぎわい創出のため、同年 6 月より供用開始された（仮称）花畑広場においては、飲食・物販・展示会や文化イベントなど様々な利用がなされた結果、広場周辺 3 地点の歩行者通行量は前年比平均 1.4 倍の伸びを示すなど、中心市街地活性化に十分に寄与する取り組みとなっている。

一方、熊本駅周辺においては、今後、鹿児島本線等連続立体交差事業をはじめ、熊本駅舎や東口駅前広場など、熊本の陸の玄関口としての整備が進められ、併せて民間事業者による駅ビル開発も平成 33 年の開業を目指す計画であり、熊本駅を利用する広域からの集客をいかにして中心商店街に呼び込むかなど、持続的に発展する中心市街地を目指して取り組んでいく。

そのため、中心市街地活性化協議会においては、平成 27 年度に新たな部会を設置し、中心商店街の魅力向上策を検討した。平成 28 年度には、中心市街地をどのような街にするかという中長期的（30 年～50 年）視点による「グランドデザイン」の策定に向けて協議・検討を重ねていくこととしている。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
人々が活発に交流しにぎわうまち	中心市街地の商店街 歩行者・自転車通行量	277,017 人 /日 (平成 22 年度)	310,000 人 /日 (平成 28 年度)	317,667 人 /日 (平成 27 年度)	①	①
城下町の魅力があふれるまち	熊本城入園者数	1,440,355 人/年 (平成 22 年度)	2,000,000 人/年 (平成 28 年度)	1,775,339 人/年 (平成 27 年度)	②	②
誰もが気軽に訪れることができるまち	市電の利用者数	9,537,000 人/年 (平成 22 年度)	10,525,000 人/年 (平成 28 年度)	11,030,949 人/年 (平成 27 年度)	①	①

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

#### ①人々が活発に交流しにぎわうまち

中心商店街における路面改修等のハード事業及びにぎわい創出に資するイベント等のソフト事業を継続的に実施した。また、熊本駅周辺地区の整備や企業立地の推進事業により中心市街地ににぎわいが創出された。

#### ②城下町の魅力があふれるまち

海外に向けたプロモーション活動の展開による外国人観光客の増加、中心市街地や熊本城に隣接する「桜の馬場 城彩苑」でのイベント開催により集客の増加が図られ、それに伴い熊本城入園者数は年々増加しているものの、季節によって入園者数の変動が見られるため、年間を通じての国内外への広報活動や旅行代理店との連携の強化をより一層行っていく必要がある。

#### ③誰もが気軽に訪れることができるまち

平成 26 年 3 月から市電に交通系 IC カードが導入され利便性の向上が図られた。また、電停改良事業や新型超低床電車導入事業が進められ、バリアフリー化の取り組みが行われた。

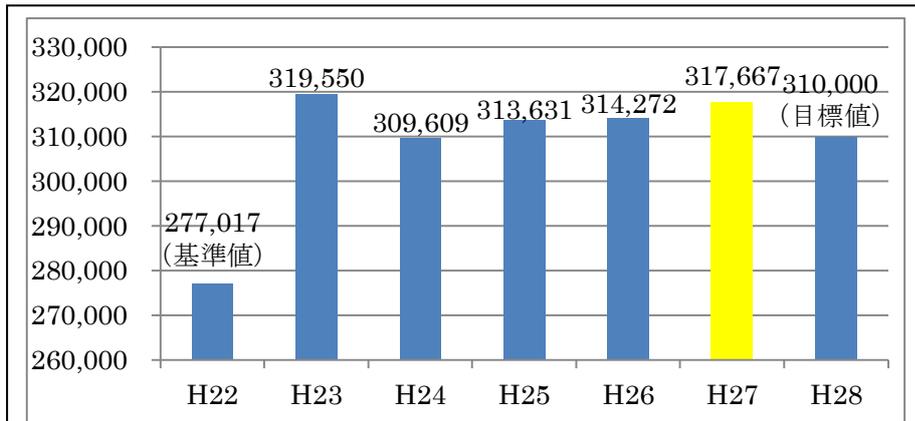
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P46～P58 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	277,017 (基準年値)
H23	319,550
H24	309,609
H25	313,631
H26	314,272
H27	317,667
H28	310,000 (目標値)

※調査方法：調査地点を通過する対象者数を進行方向別に5分間計測、計測値に12を乗じて1時間の通行量を換算・推計し、1日(12時間)の通行量を算出

※調査月：平成27年10月

※調査主体：熊本市、熊本商工会議所

※調査対象：計測地点28か所における歩行者及び自転車(中学生程度以上)通行量の2日間(金曜日と日曜日)の平均値

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. 花畑地区広場整備事業(事業主体：熊本市)

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	中心市街地のにぎわいの核となる広場整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>桜町・花畑周辺地区のにぎわい創出と中心市街地の回遊性の拠点となるよう暫定的な運用を行い、再開事業完了後は、隣接するシンボルプロムナードと一体となって市民等が憩い・集いたくなるような空間を形成する。また、市民等が気軽に使用でき、また日常においても寛げる空間となるよう芝生や人工芝等による整備を行い、桜町・花畑周辺地区のにぎわいを創出する。</p> <p>平成27年度から(仮称)花畑広場として暫定的に供用開始したところであり、物販、飲食や展示会等の多様な利用が行われ、休日における稼働率は、平均74%と多くの方が利用している。さらに、周辺3地点の歩行者通行量は前年と比べ、平均1.4倍の伸びを示しており、当地区のにぎわいを創出している。</p> <p>【スケジュール(見込)】</p> <p>平成26年度 旧産業文化会館解体</p> <p>平成27・28年度 整備計画作成</p> <p>平成29年度 基本設計</p> <p>平成30年度 実施設計・整備着手</p>

【周辺3地点の通行量】

平成22年度（基準値）：30,507人  
 平成26年度（前年度）：32,858人  
 平成27年度（最新値）：46,810人

②. 市街地再開発等事業（桜町地区）（事業主体：民間事業者）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、（仮称）熊本城ホール等の整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>人・モノ・情報の交流拠点となるランドマーク施設の整備、広域バスターミナルや商業施設等の機能更新により、桜町・花畑周辺地区のにぎわいの創出を図る。</p> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成26年度 基本設計・実施設計・権利変換計画作成・測量等              平成27年度 解体工事・建設工事・工事監理              平成28年度 解体工事・建設工事・工事監理              平成29年度 建設工事・工事監理              平成30年度 施設工事・施設完成</p> <p>※平成27年度から施設の解体工事が始まり、平成28年度は解体工事完了後、建設工事に入る予定であり、予定通り進捗している。</p>

③. 【追加】優良建築物等整備事業（下通A地区）（事業主体：民間事業者）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	優良建築物等整備事業を活用し、老朽化した2棟の建物の共同建替を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>耐震上、早急な建て替えが望まれる老朽化した建物の建て替えを行い、地区の安全性、防災性の向上を図る。また、熊本城方面から下通へ通り抜けが可能な歩行者空間の確保や外向き店舗を配置することで、通りからのにぎわい創出を図る。</p> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成26年度 基本設計・実施設計、解体工事              平成27年度 解体工事、建設工事              平成28年度 建設工事、施設完成 施工完了</p> <p>※平成27年度に施設の解体工事が完了し、建設工事に着手しており、平成28年度に予定通り施設完成予定である。</p>

④. 中心市街地空き店舗等総合活用事業（事業主体：熊本市又は民間事業者）

事業完了時期	【実施中】				
事業概要	中心市街地（上通、下通、新市街他）における空き店舗数が増加傾向にあることから、空き店舗等の利活用を図るための支援措置を講じる。				
事業効果及び進捗状況	<p>商店街の空き店舗に入居する際の費用及びその後の家賃の一部を補助することにより、空き店舗の解消に向けて取り組む。</p> <p>空き店舗率は改善傾向にあり、平成 27 年度は、営業店舗数も 13 店舗増加している（目標数値の設定時も同数の増加を見込む）。営業店舗数の増加により集客が図られ、歩行者通行量が増加している。</p> <p>【中心市街地商店街空き店舗率】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成 22 年度（基準値）</td> <td>11.4%（42 店／370 店）</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度（最新値）</td> <td>7.1%（26 店／367 店）</td> </tr> </table>	平成 22 年度（基準値）	11.4%（42 店／370 店）	平成 27 年度（最新値）	7.1%（26 店／367 店）
平成 22 年度（基準値）	11.4%（42 店／370 店）				
平成 27 年度（最新値）	7.1%（26 店／367 店）				

⑤. （仮称）下通新天街アーケード照明 LED 化及び路面改修事業（事業主体：下通新天街商店街振興組合）

事業完了時期	平成 25 年度【済】				
事業概要	整備後 20 数年が経過した下通新天街エリアの路面改修を行うとともに、アーケード照明の LED 化を図る。				
事業効果及び進捗状況	<p>「安全な歩行環境」の整備事業として、路面改修等を行うとともに、「夜も安心できる明るいアーケード環境の整備」による防犯体制強化事業として、アーケードライトの LED 化、防犯カメラの設置等を実施し、商店街の魅力が向上した。</p> <p>【下通及び下通周辺地区の通行量】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成 22 年度（基準値）</td> <td>158,612 人</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度（最新値）</td> <td>169,634 人</td> </tr> </table>	平成 22 年度（基準値）	158,612 人	平成 27 年度（最新値）	169,634 人
平成 22 年度（基準値）	158,612 人				
平成 27 年度（最新値）	169,634 人				

⑥. (仮称) 中心市街地公衆無線 LAN 整備事業(事業主体：熊本まちなか Wi-Fi 化協議会他)

事業完了時期	【実施中】						
事業概要	上通・下通・新市街とその周辺商店街エリアに、中心商店街が主体となって、公衆無線 LAN の整備を行う。						
事業効果及び進捗状況	<p>上通・下通・新市街の各商店街が費用を負担し、試験的に公衆無線 LAN の運用を行い、これを活用してさまざまな情報を発信し、中心市街地の活性化を図っている。設置後、利用者数は順調に伸びてきており、商店街の魅力向上に大きく寄与している。</p> <p>【アクセスポイントの設置数】 上通 6 箇所、下通 8 箇所、新市街 3 箇所</p> <p>【利用者数推移】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成 26 年 3 月</td> <td>4,001 人</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年 3 月</td> <td>9,109 人</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年 3 月</td> <td>17,889 人</td> </tr> </table>	平成 26 年 3 月	4,001 人	平成 27 年 3 月	9,109 人	平成 28 年 3 月	17,889 人
平成 26 年 3 月	4,001 人						
平成 27 年 3 月	9,109 人						
平成 28 年 3 月	17,889 人						

⑦. 熊本駅前東 A 地区関連事業 (事業主体：熊本市)

事業完了時期	(熊本駅前東 A 地区市街地再開発事業) 平成 20 年度【済】 (暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅前東 A 地区)) 平成 24 年度【済】										
事業概要	公共公益施設、商業業務施設、共同住宅等の整備を一体的に行う。										
事業効果及び進捗状況	<p>情報交流拠点「くまもと森都心プラザ」やタワーマンション等の整備により、情報発信・にぎわいの創出・駅に近接した中心市街地での都心居住が図られた。また、多くの方が情報交流施設を利用し、特に図書館の利用をしていることから、熊本駅周辺地区の歩行者通行量の増加に寄与している。</p> <p>【情報交流施設利用者数】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td>1,052,109 人 (うち図書館利用者 758,068 人)</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td>1,109,252 人 (うち図書館利用者 800,840 人)</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>975,118 人 (うち図書館利用者 647,635 人)</td> </tr> </table> <p>【熊本駅周辺地区 2 地点の通行量】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成 22 年度 (基準値)</td> <td>3,485 人</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度 (最新値)</td> <td>12,498 人</td> </tr> </table>	平成 25 年度	1,052,109 人 (うち図書館利用者 758,068 人)	平成 26 年度	1,109,252 人 (うち図書館利用者 800,840 人)	平成 27 年度	975,118 人 (うち図書館利用者 647,635 人)	平成 22 年度 (基準値)	3,485 人	平成 27 年度 (最新値)	12,498 人
平成 25 年度	1,052,109 人 (うち図書館利用者 758,068 人)										
平成 26 年度	1,109,252 人 (うち図書館利用者 800,840 人)										
平成 27 年度	975,118 人 (うち図書館利用者 647,635 人)										
平成 22 年度 (基準値)	3,485 人										
平成 27 年度 (最新値)	12,498 人										

⑧. 新熊本合同庁舎の整備（事業主体：国）

事業完了時期	(A 棟) 平成 19 年度～平成 22 年度（供用開始 H23. 2）【済】 (B 棟) 平成 24 年度～平成 26 年度（供用開始 H26. 10）【済】
事業概要	熊本駅周辺地区の南の回遊拠点として、坪井川や市電の電停とあわせた憩いとやすらぎの空間の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	熊本駅にふさわしいアメニティ空間が形成されるとともに、拠点施設としてにぎわいの創出が図られた。 【A 棟、B 棟を合わせた職員数及び来庁者数（平成 28 年 3 月現在）】 職員数：約 2,200 人 来庁者数：約 8,000 人／月

⑨. 企業立地促進事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	企業立地を促進するため、ホームページやパンフレット等を活用した広報活動や市内に事業所を新設・増設・移設する企業に対する支援措置を講ずる。
事業効果及び進捗状況	中心市街地における企業立地件数は増加傾向で、平成 22 年度以降の新規雇用予定者数は約 3,000 人となり、中心市街地のにぎわい創出に寄与している。職種としてはコールセンター・事務センター等が多い。 なお、市内全体の企業立地件数においても、平成 22 年度には 8 件であったが、平成 27 年度には 16 件まで増加しており、製造業や運輸業、コールセンター等の職種を中心に、さまざまな企業が進出している。 【中心市街地における企業立地件数】 平成 22 年度：1 件      平成 25 年度：7 件 平成 23 年度：1 件      平成 26 年度：6 件 平成 24 年度：5 件      平成 27 年度：8 件

⑩. 自転車駐車場整備等補助事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	平成 28 年度【未】
事業概要	中心市街地の駐輪場不足を解消するため、民営駐輪場を新たに整備した民間事業者や短時間（2 時間以内）の駐輪場利用者について料金を徴収しない民間事業者に対し、要綱に基づき整備費の一部を補助する。
事業効果及び進捗状況	平成 24 年度に民間駐輪場 11 箇所の整備は完了し、平成 28 年度までの 5 年間にわたって補助を行う。 駐輪場の整備により、自転車利用者の利便性が向上し、放置自転車数も大幅に減少している。利用者をより中心市街地へ呼び込むことにつながっており、安全・安心で快適に歩くことができる歩行者空間や都市景観の改善を実現している。

【中心市街地の駐輪場設置数】

市営 5 箇所、民営 11 箇所

【中心市街地の駐輪場利用台数】

年度	市営	民営	合計
平成 25 年度	1,133,723 台	1,358,574 台	2,492,297 台
平成 26 年度	1,150,072 台	1,349,895 台	2,499,967 台
平成 27 年度	1,070,474 台	1,253,687 台	2,324,161 台

【中心市街地の放置自転車数の調査結果（年 1 回実施）】

平成 22 年度（基準値）：1,857 台

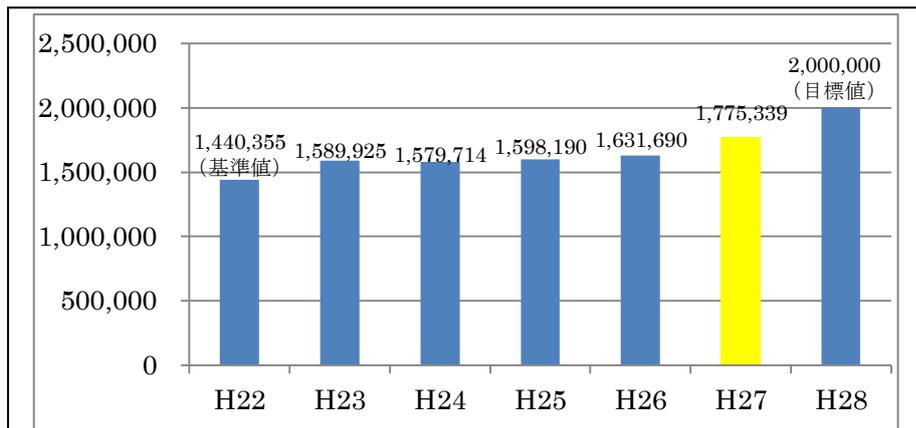
平成 27 年度（最新値）：54 台

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・各商店街における路面改修等のハード事業及びにぎわい創出に資するイベント等のソフト事業の継続実施に伴い、目標達成可能であると見込まれる。
- ・商店街歩行者・自転車通行量は、平成 23 年度以降、目標値を上回る状況で推移している。
- ・一方、平成 26 年度に商業施設が相次いで閉店し、今後のにぎわいの低下が懸念されている。そのため、にぎわい創出に寄与する既存のハード及びソフト事業に加え、（仮称）花畑広場を活用し、年間を通じた定期的なイベント等の実施をしており、一定のにぎわいを創出している。
- ・中心市街地の優れた交通利便性、安全安心の居住空間や豊かな自然などを理由に、企業が進出してきており、引き続き空き店舗の活用や企業立地に対する支援を行っていく。

「熊本城入園者数」※目標設定の考え方基本計画 P59～P65 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	1,440,355 (基準年値)
H23	1,589,925
H24	1,579,714
H25	1,598,190
H26	1,631,690
H27	1,775,339
H28	2,000,000 (目標値)

※調査方法：熊本城入園者数の集計による算出

※調査月：平成27年4月～平成28年3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城入園者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城第Ⅱ期復元整備事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	平成29年度【未】
事業概要	平成20年度から平成29年度までの10年間を目処に、行幸坂から見た往時の熊本城の復元整備を図るため、「馬具櫓一帯」、「西櫓御門及び百間櫓一帯」、「平左衛門丸の塀」の区域の整備を進める。
事業効果及び進捗状況	平成26年度に馬具櫓及び続塀の整備が終わり、平成27年度は、前年度までの整備事業の報告書をまとめ、今後も継続して事業を進めていく。熊本の歴史・文化を象徴する熊本城を復元整備し、中心市街地と調和した都市空間の再生を図る。

②. 中心市街地活性化推進事業（事業主体：熊本商工会議所、中心商店街等連合協議会、城下町大にぎわい市実行委員会、ストリート・アート・プレックス実行委員会他）

事業完了時期	【実施中】												
事業概要	年間を通して行われるストリート・アート・プレックスや四季折々に街なかのにぎわいを創出する、「城下町くまもとゆかた祭り」、「城下町くまもと銀杏祭」、「はしご酒」、「大にぎわい市」、「光のページェント」等を開催する。												
事業効果及び進捗状況	<p>まちの文化、芸術の継続的な発信や事業者、商店街等が連携して、中心市街地の魅力向上につながるイベントを季節ごとに実施し、街なかのにぎわいを創出する。</p> <p>【ストリート・アート・プレックス】 開催数：通算208回（毎年10回程度）</p> <p>&lt;集客数&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25,295人</td> <td>34,939人</td> <td>30,732人</td> <td>36,604人</td> <td>37,807人</td> <td>33,844人</td> </tr> </tbody> </table>	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	25,295人	34,939人	30,732人	36,604人	37,807人	33,844人
平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度								
25,295人	34,939人	30,732人	36,604人	37,807人	33,844人								

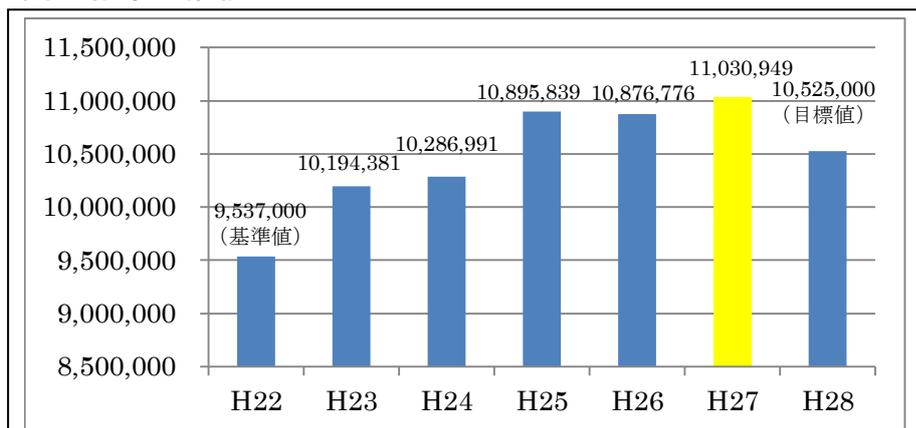
【城下町くまもと銀杏祭】 開催数：通算 11 回（毎年 10 月）					
<集客数>					
平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
22,816 人	37,108 人	39,940 人	53,082 人	56,064 人	64,194 人
【城下町大にぎわい市】 開催数：通算 12 回（毎年 10 月）					
<集客数>					
平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
126,330 人	156,984 人	168,400 人	201,906 人	72,466 人	133,000 人
※平成 26 年度は台風の接近により初日のみ開催。					

### ●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・海外に向けたプロモーション活動の展開による外国人観光客の増加が見られ、外国人入園者数が、平成 22 年度の入園者数の約 10%から、平成 27 年度には入園者数の約 25%と増加した。その効果により、基準値（平成 22 年度）を上回っているが、目標値までは届いておらず、目標達成可能とは見込まれない。
- ・熊本城に隣接する「桜の馬場 城彩苑」において、平成 27 年度は、定期的に行われている熊本城おもてなし武将隊による演舞やひごまる隊パフォーマンスをはじめ、お城まつりやみずあかりなど熊本城や中心市街地内で開催される催事と一体となったイベントを開催した。また、熊本城の入園時間延長に合わせた夜市の開催や「桜の馬場 城彩苑」の中にある歴史文化体験施設「湧々座」の入場券もセットとなった熊本城・湧々座共通入園券の販売促進なども行い、熊本城と連携・協力していくことで、熊本城と「桜の馬場 城彩苑」との回遊性が高まった。そのため、平成 27 年度の「桜の馬場 城彩苑」の入場者数は、年間 100 万人を超え、直近では最も多い人数となっており、今後も熊本城と一体となり、熊本城入園者数の増加につなげる。
- ・引き続き熊本城第Ⅱ期復元整備事業を進めていくとともに、中心市街地でのイベントにより熊本城一帯の魅力を高め、さらに、武将隊の活用や大手旅行会社とのツアー企画連携も行い、国内外からの観光客の誘致を図る。特に、海外に向けたプロモーション活動は重点的に行い、ホームページの多言語化（英・中・韓）などを行うことで更なる効果を上げていく。

「市電の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P66～P71 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	9,537,000 (基準年値)
H23	10,194,381
H24	10,286,991
H25	10,895,839
H26	10,876,776
H27	11,030,949
H28	10,525,000 (目標値)

※調査方法：市電運賃収受の集計による算出

※調査月：平成27年4月～平成28年3月

※調査主体：熊本市交通局

※調査対象：市電の利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 超低床電車導入事業（事業主体：熊本市交通局）

事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	超低床電車を7編成14両所有していたが、誰もが利用しやすい市電とするため、新型超低床電車（COCORO）を1編成2両導入する。
事業効果及び進捗状況	新型超低床電車は、出入口付近の床面高さが30cmで、車いす用の電動リフトを装備している。バリアフリー化により、誰もが乗降しやすいものとなり、市電の利用者数の増加に寄与している。

②. 市電車両リフレッシュ事業（事業主体：熊本市交通局）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	旧型車22両の市電のステップ改良（嵩上げ）や窓ガラスの取り替え等を実施する。
事業効果及び進捗状況	<p>平成26年度までに旧型車22両のうち17両の改修が終わり、平成27年度に残りの5両を改修した。利便性の向上を図ることにより誰もが乗降しやすいものとなり、市電の利用者数の増加に寄与している。</p> <p>【市電車両の満足度（市電・バスに関するアンケート調査報告書）】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「満足」＋「やや満足」の割合</p> <p>平成22年度（基準値）：64.3%</p> <p>平成27年度（最新値）：72.9%</p> </div>

③. 電停改良事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	平成 28 年度【未】				
事業概要	市電の利便性向上のため、電停のバリアフリー化を行う。				
事業効果及び進捗状況	平成 22 年度に新水前寺駅結節強化事業、平成 23 年度に九品寺交差点、平成 24 年度に市立体育館前、平成 26 年度に交通局前及び熊本城・市役所前の各電停の改良が完了し、今後も引き続き事業を実施していく。				
	電停のバリアフリー化により、市電の利用促進及び利便性向上が図られ、市電の利用者数の増加に寄与している。				
	【電停改良を行った 3 駅の乗降人数】				
	年度	新水前寺駅前	九品寺交差点	市立体育館前	交通局前
平成 22 年度（基準値）	2,960 人	1,406 人	629 人	1,402 人	1,905 人
平成 27 年度（最新値）	4,857 人	2,227 人	957 人	1,657 人	3,009 人

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・交通系 IC カードの導入による利便性の向上及び電停改良や新型超低床電車導入などのバリアフリー化の取り組み等により、目標達成可能であると見込まれる。
- ・本市では、将来的な人口減少、超高齢社会への対応に向け、「熊本市公共交通ランドデザイン（平成 24 年 3 月策定）」において、市電を基幹的な公共交通機関として位置づけている。また、平成 25 年 4 月には、市民・事業者・行政それぞれの役割、基本的施策等を定めた「熊本市公共交通基本条例」を施行し、その具体化に取り組んでいる。平成 28 年度以降においては、電停を公共交通相互や自転車、自家用車等との交通結節として機能を強化し、乗換拠点として整備するとともに、GPS を活用した市電ロケーションシステム導入へ向けた検討を行い、電停改良事業についても引き続き実施していく予定である。さらに、「自動車から公共交通へ」というコンセプトのもと、市電が、高齢者等の安全な移動手段の確保に寄与することはもとより、熊本城と並ぶ本市の観光資源の一つとなっており、広く利用されていることから、より一層の利便性向上を図ることで、選ばれる都市づくりを推進し、民間投資や企業立地の促進、観光振興につなげていく。